

情報クリップ

農業情報ピックアップ

9/28

この牛どこ生まれ? ネットで検索

牛1頭ごとにつけられた10桁の番号で、生年月日や「出身地」を調べられるデータベースが、10月からインターネット上で公開される。農水省の発表によると、当面は生産農家の利用が中心だが、来年度からは店頭販売の牛肉にも10桁番号が表示される見通しで、消費者も牛肉の来歴を確認できる。
(朝日)

トピックス

9/16 クロロゲン牛のミルク店頭へ

米紙ワシントン・ポストは、体細胞を利用したクロロゲン技術を使って生まれた乳牛のミルクが、早ければ来年にも一部のスーパーの店頭に並ぶ可能性がある」と報じた。
(共同)

9/19 牛肉の安全情報、携帯でも

牛肉の流通経路などをインターネットのホームページで公開している全農広島県本部の「牛のパスポートシステム」が、携帯電話でアクセスできるようになる。
同システムはBSE問題をきっかけに今年4月スタート。牛の飼料、投薬履歴などの生産過程や、解体、出荷までの流通経路を閲覧できる。各社の携帯電話からアクセス可能。ホームページアドレスは、<http://www.moupass.net/m/>
(共同)

9/27 コメ作況指数、全国平均は101の「平年並み」

農林水産省が発表した9月15日現在のコメ作柄概況によると、全国平均の作況指数(平年を100とした10a当たりの収量)は101で「平年並み」となった。都道府県別では、7月から8月にかけて低温と日照不足が続いた北海道

9/28

この牛どこ生まれ? ネットで検索

が94の「不良」となった他、青森、秋田、台風15号の影響があった福井、鹿児島計4県が「やや不良」になっている。
(朝日)

10/2 韓国のシカ肉や骨の輸入を一時停止

農水省は、韓国からのシカ肉やシカの骨の輸入を一時停止すると発表した。韓国で昨年7月、シカ科の動物にBSEに症状が似た慢性消耗性疾患が発生したのを受けた措置。
韓国からのシカ肉などの輸入は、韓国で牛の口蹄疫が発生したため、今年5月から禁止されているが、今回の措置で口蹄疫発生が治まっても輸入停止が続くことになる。
(毎日)

無登録農薬

9/11 無登録農薬 土壌殺菌剤4県で販売

無登録農薬が全国に出回っている問題で、新たに「PCNB」という土壌殺菌剤が茨城、長野、石川、群馬の4県で販売されていたことがわかった。
農水省農薬対策室は「回収中のものとは別の商品で、輸入業者が中国から新たに仕入れた。土に注入して使うので、作物に農薬が残る危険はない」と話している。

9/13

長野県が無登録農薬紹介

「ヤマウド農家」一覧表配布
長野県上伊那郡農業改良普及センターが昨年、管内のヤマウド生産農家に無登録農薬を紹介したり、他の農作物用に登録された農薬の転用を勧めていたことが分かった。
同センターによると、昨年ヤマウド栽培指導の講習会で、センター職員が、10数戸のヤマウド生産農家に無登録農薬などを記載した一覧表を配布。その中で無登録農薬「レジサン水和剤」を白絹病用に紹介していた。
(朝日)

9/26 新田郡農協を家宅捜索

発がん性が指摘される無登録農薬が販売されていた問題で、群馬県警生活環境課は、農薬取締法違反などの疑いで新田郡農協や同農協尾島支所の家宅捜索を始めた。一連の無登録農薬問題で農協が強制捜査を受けるのは初めて。
(毎日)

9/28 梅干し原料から無登録農薬

和歌山県は、同県名産の梅干し製品用に塩漬けた梅から、発がん性が指摘されている無登録農薬「ダイホルタン」が検出された、と発表した。梅干しのサンプル調査を実施するとともに、原料の梅を出荷した農家を立ち入り検査して農薬の使用状況などについて調べた。
(共同)

9/29 無登録農薬使用で損失10億円超

無登録農薬使用で廃棄された農産物はナシなど17品目、計4281tで損失額は10億3000万円以上となる見込みだが、読売新聞の調査で分かった。
7種類計169t以上の無登録農薬が42道府県で販売されており、違法販売には11農協が関与していた。
(読売)

残留農薬

9/19 中国産春菊から農薬

厚生労働省は、中国産冷凍春菊の輸入時の検査で国の基準の最大7倍に当たる残留農薬クロルピリホスが検出されたため、検査を強化したと発表した。
厚労省によると、8月と9月に2回、冷凍春菊からクロルピリホスが、基準値0.01ppmに対しそれぞれ0.07ppm、0.05ppmの濃度で検出された。
(共同)

9/20 米国産ホウレンソウにベルメトリン

東京都は、日本ハムグループの「ジャパンフード」が米国から輸入した冷凍ホウレンソウから基準値を超える農薬、ベルメトリンが検出されたと発表した。
ベルメトリンは野菜、果樹の害虫駆除の他、家庭用殺虫剤にも使われ、国の検疫所でこれまで2回、米国産ホウレンソウから検出された例がある。今回の検出量では健康に影響はないという。
(毎日)

9/24 冷凍食品は国産を志向

製品輸入促進協会が発表した消費者の輸入品に対する意識調査によると、中国野菜の残留農薬問題

の影響で、冷凍加工食品について「国産品を選ぶ」と答えた人は全体の64・4%に上り、「輸入品を選ぶ」とした人の1・2%を大きく上回って、食品の中で国産品志向が最も高い品目となった。

食品の中で国産品志向が高かったのは、冷凍加工食品に続いて生鮮食肉(59・9%)、生鮮野菜・果物(59・6%)が挙げられた。(共同)

狂牛病・偽装牛肉

9/13 日ハム関係、全箱検査へ
日本ハムグループの牛肉偽装事件を受けて、農水省は、同社本체가買い取りを申請した牛肉の796tのうち、国の検査が済んでいない約683tの全箱検査を始めると発表した。

対象の肉は、7都道府県の10倉庫に保管中。同省はこれらを兵庫県西宮市にある日本ハムグループの倉庫に順次移し、問題のある肉が混入していないか調べる。(共同)

9/20 売り上げ予想850億円減
日本ハムは、同グループの牛肉偽装事件の影響で、来年3月期連結決算の売上高が5月時点の予想より850億円減の9000億円、当期純損益は190億円の赤字から、1951年に株式会社となった以来初めて10億円の赤字に転落する見通しを発表した。(共同)

9/20 食肉問題検討委を設置へ
農水省は、国の国産牛肉買上げ事業を悪用した牛肉偽装事件が続いたことへの反省から、食肉業界と業界団体、行政のあり方を有識者に検証してもらう「食肉流通

問題調査検討委員会」を設置した。研究者と消費者団体代表ら10人を委員に、日本ハム会社などによる偽装事件などで批判された食肉業界と食肉行政を外部の視点から検証するが、政・官・業の癒着構造がなかったかという問題にも踏み込む可能性もあり、注目される。(毎日)

9/25 BSE 1頭目前に感染牛?
農水省のBSEに関する技術検討会は同省で会合を開き、昨年9月に確認された国内初のBSE感染牛より先に別の感染牛があり、その牛でできた餌を食べた「2巡目感染」の可能性や、感染源が複数である可能性などを排除できないと指摘した。

同省はいまだに感染経路を絞り込めていないため、今回の指摘を受けて感染経路の調査範囲を拡大する必要があるのか、あらためて専門家の意見を聞いて評価、分析する方針だ。(共同)

農業制度改革

9/12 農協を独禁法対象に
政府の総合規制改革会議は、年末の答申に向けた検討項目などを協議し、焦点の一つである農業分野では、農機具や肥料の販売をほぼ独占している農業協同組合を独占禁止法の規制対象に加える方向で検討することになった。

農業への民間企業参入を促し、農家の生産コスト低減と地域経済の活性化を図る。(共同)

9/25 農水省、農業特区に前向き
政府は、地域限定で規制緩和す

る「構造改革特区」で、自治体や企業から寄せられた426件の特区案に対する各省庁の回答を、特区推進本部のホームページで公表した。

要望が最も多かった農業特区については、北海道の提案に対し農林水産省が「農業生産法人以外の企業による経営が可能かどうか検討中」と前向きに対応する姿勢を示した。

推進本部のアドレスは、<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kouzou/> (共同)

10/3 コメ政策見直しの研究会を再開
食糧庁は、コメ政策の見直しを協議する「生産調整に関する研究会」の議論を再開すると発表した。

来月末に最終報告をまとめる。食糧庁はこの報告をベースにして、2004年からコメ政策を見直す。(時事)

テクノロジー

9/12 クローン マウスの遺伝子異常が多発
体細胞クローンの技術を使って生まれたマウスで遺伝子の発現異常が高頻度で起こっていることを、米ハワイ大の柳教授らのグループが突き止め発表した。

グループは「クローン動物は外見上正常でも、遺伝子レベルでは異常があり、死亡率や奇形の発生率が高いこと」の理由の一つと考えられる」と指摘した。(共同)

9/23 農薬汚染土壌を無害化
広島県立大の玉置助教教授らの研

究グループは、DDTなどの農薬による汚染土壌を、電気分解で無害化する実験に成功した。

実験では、小島助教教授らが開発したダイオキシン類などの電気分解装置を使用。汚染土壌200gからDDTを抽出して濃縮、約20分間電気分解したところ、95%の割合で、無害の塩素化合物などに分解された。(共同)

9/25 イネのミトコンドリア解読
イネの細胞内でエネルギー生産を行うミトコンドリアのゲノムの解読に、農業生物資源研究所と東京大大学院農学生命科学研究科の研究グループが成功した。

植物のミトコンドリアゲノム解読は単子葉植物では世界初。(共同)

10/5 「酵素」でダイオキシン分解
水質汚染が進んだ池や湖沼のダイオキシンを、植物が分泌する物質を利用して分解する人工酵素を、京都大農学研究科のグループが開発した。

哺乳類が持っている薬物分解酵素の遺伝子を改変することで作製する。実用化されれば、ダイオキシン中毒の遺伝子治療や食品、土壌の汚染除去など幅広い応用が期待される。(読売)

11月のイベント

(国内)
●第23回フード・ケータリングショー 11月12～15日
会場 東京ビッグサイト
内容 企業・学校・病院・社会福祉などの給食・ケータリング事業を中心としたフードサービスに関

する見本市。
主催 日本能率協会
問い合わせ 03-3434-1377
公式サイト <http://www.jma.or.jp/CATEREX/ja/>

●JF食材・産品フェア2002 11月13～14日
会場 都立産業貿易センター
内容 外食産業向け農畜水産物・加工品、食料調達の情報革新とテクノロジー、併設セミナーなど。
主催 日本フードサービス協会
問い合わせ 03-5403-1065
公式サイト <http://www.jfnet.or.jp/evnt.htm>

●第3回農林水産環境展 11月26～29日
会場 幕張メッセ
内容 「集落排水フェア」、「畜産環境フェア」、「有機資源フェア」などの各フェア。
主催 農林水産環境展実行委員会事務局
問い合わせ 03-3359-5349
公式サイト <http://www.kankyo-news.co.jp/etaff/>

(海外)
●IPA 11月18～22日
会場 Paris Nord/Villepinte (フランス・パリ)
内容 国際食品製造週間として開かれる見本市。GIA(固形食品製造見本市)・MATIC(食肉加工見本市)・SIEL(ミルク・液体・半液体製品見本市)から構成される。
主催 EXPOSITION
問い合わせ +33-1-49 08 51 00
公式サイト <http://www.ipa-web.com/>